



地域支援センター「みみらんど・郡山」

令和2年度 第2回きこえとことばの基本研修会

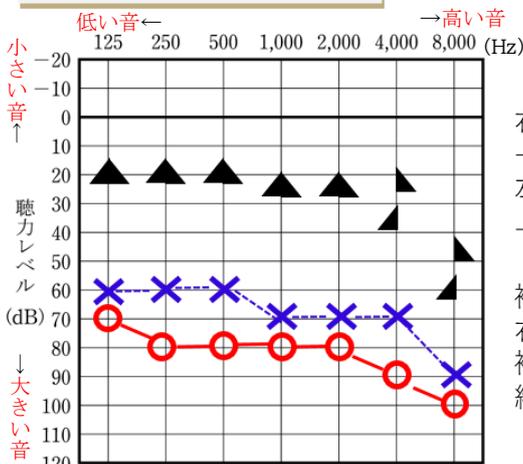
テーマ「聴力検査の結果の見方と活用について」 講師 石垣 太郎教諭

8月20日(木)、第2回きこえとことばの基本研修会を行いました。

本校の自立活動支援センター石垣太郎教諭を講師に、「オーディオグラムの見方」や「聴力検査の方法」、「検査結果から考える児童生徒への合理的配慮」などについて学ぶことができました。



オーディオグラムの見方



★オーディオグラムの聴力はきこえ始めの数値であり、音の内容を理解できる大きさではありません！

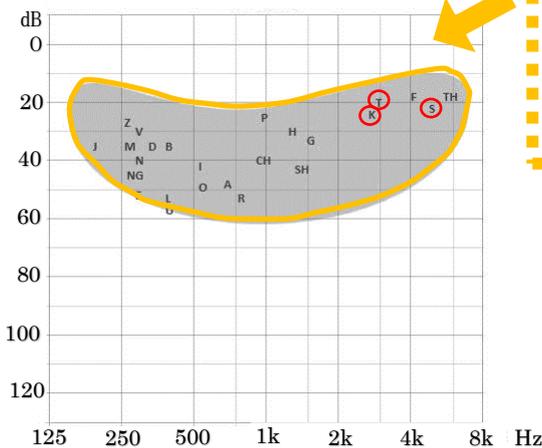
★音声成分ではア (A) は聴取しやすい音ですが、高周波数のサ行の「S」音、カ行の「K」音、タ行の「T」音は、健聴者にとっても聴取しにくい音です。補聴器の調整をしても高周波数の音声成分は聴取できないこともあります。

※聴取しにくい音は、努力できこえるものではないため、カ行、サ行、タ行は教師が特に配慮すべき音となります。

右耳裸耳 (補聴器無し) → ○ (実線で結ぶ)
左耳裸耳 (補聴器無し) → × (点線で結ぶ)

補聴器を付けた聴力は、右 → ▲ 左 → ▴ 両耳 → ▴
補聴器装用時の聴力は、線で結びません。

聴力検査の活用



普段の会話の大きさと周波数の分布は、この枠内 (スピーチバナナ) に含まれます。この中に、補聴レベル (補聴器装用時の聴力レベル) が入るように補聴器を調整します。この範囲内に補聴レベルがあるかどうかが大切！補聴器を装用してからも音を聴取する学習が必要です。

日本語の獲得を目指して、手立てや配慮を考える！

- ★話し声の大きさについては、聴力 + 20 dB (デシベル) の声を子どもに届けるようにします。(話し手から遠くなると音の大きさは減衰することや周囲の騒音を考慮します。)
- ★発言をするときは一人ずつ話す、話す人を見るなど、授業や活動でのルールづくりをします。

<参加者の感想>

- オーディオグラムの見方を理解して、その子の聴力について把握し伝え方や音の環境を見直していきたいと思いました。
- 補聴器を装用しているから聞こえていると思いがちだったので、音以外でも理解の確認をする必要があると感じました。